

「研究テーマ」

## 見出しや表現を工夫して自分たちの新聞をつくろう

加古郡播磨町立蓮池小学校 校長 林 裕 秀  
教諭 高木 裕 子

### 1 はじめに

本校では、平成23・24年度ひょうご学力向上推進プロジェクト「ことばの力」育成事業の研究指定を受け、「説明する理数教育」をテーマに研究を続けてきた。また全校的に日本語検定に取り組み、言葉の大切さを身に付けさせている。同時に朝の学習タイムに読書タイムやボランティアによる読み聞かせなどを行い、日本語の大切さや言葉による文化の伝承、コミュニケーション能力の育成に力を注いでいる。そのような活動の一つとして、5年生を対象に平成25年度よりNIEに取り組んできた。

### 2 概要

この活動は、国語、社会、総合的な学習、学校行事で実施している。

まず、国語科では「新聞記事を読み比べよう」という単元が9月にあり、その際の新聞の読み比べにより、書き手の意図に迫る学習をする。

社会科では2学期に「情報化した社会とわたしたちの生活」の単元で、テレビやインターネットに目が行きがちなメディアから、メディアの特徴として新聞の役割を見つめ直す。

その契機として、本学級では学校で購入している神戸新聞を教室で誰でも

が閲覧できるようにするとともに、各社から提供されてきた各種「こども新聞」を学級文庫と同様に置き、「新聞のある学級」として新聞を日常生活に取り入れた。また、新聞記事を適時、社会・道徳等の各教科の中で取り上げ、新聞記事活用の日常化を進めた。

そして特別活動の学校行事としての秋の遠足で新聞社訪問をし、実際に新聞がつくられる様子を見学した。

総合的な学習を利用して新聞記者の派遣を依頼し、取材の仕方や内容の扱い方、見出しの工夫、リード文の書き方などを学習し、最終的には自分たちの新聞づくりに集約させた。

### 3 国語科での学習

国語科では2学期に「新聞記事を読み比べよう」という単元がある。

内容は「新聞の特徴と、編集の仕方や記事の書き方を確かめよう」「写真の役割を確かめよう」「2つの記事を読み解いてみよう」である。

2つの新聞記事を読み比べるのは、教科書ではA社の「しぶきを上げてはね上がる江戸前アユ」とB社の「多摩川をさかのぼるアユ 200万匹をこえる」である。



学習では、まずA社の記事に書かれている内容とB社の記事内容で共通していることを書き出してから、何が違って何が同じなのかを話し合った。

そして内容的には同じ一つの事実がなぜ読み手に違う印象を与えるのかを探っていた。

C「主見出しはあまり変わらないけど、袖見出しが違うので、伝わり方が違うと思います」

T「具体的に言うとどういうことかな？」

C「A社は『初夏の日光 きらめく銀のうろこ』という見出しで、アユの元気良さや美しさを強調しています。でもB社は『よみがえった多摩川の自然』という袖見出しで多摩川がよみがえったことが言いたいのだと思います」

C「B社の場合、多摩川がよみがえった証拠としてアユを取り上げているのではないですか」

C「A社とB社では言いたいことが違う」

C「扱っている写真もA社の方はアユが飛び跳ねている迫力ある写真ですが、B社はみんながのんびり網を持って魚取りをしている様子の写真です」

T「書き手が読み手に伝えようとしていることが違うということですね。」

A社とB社の写真を入れ替えてみたらどうでしょう」

パソコンを使って、A社とB社の写真を入れ替え、50インチのテレビで見せる。子どもからはおかしいという声が出る。

C「A社の見出しが『しぶきを上げてはね上がる』なのに、のんびり魚取りをしている写真はおかしいと思います」

この授業を通して、子どもたちは情報を人に伝える場合、文章だけでなくその意図に合った写真を載せることも大切だとわかった。

その後、神戸新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞の6紙で読み比べを行った。教科書のような典型的な記事は発見できなかったが、見出しやリード、写真の違いは大きな発見につながった。特にスポーツ欄の写真の違いに子どもたちは見入っていた。

#### 4 社会科での学習

社会科では「情報産業とわたしたちの暮らし」で、まず子どもたちに身近なテレビを扱う。「テレビの情報」や「テレビ局の番組づくり」を学習した後、メディアの特徴として、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどを取り上げる。

特にメディアの特徴として、①伝える速さや時間②便利さや利用のしやすさ③記録の保存のしやすさ④伝えられる情報の正確さなどで、メディアの特徴を分類していった。

そして子どもたちは、どのメディアが良くてどのメディアが悪いのかではなく、それぞれのメディアの特徴がいろいろな人に必要とされていることを発見した。

新聞の良さは、①文字で伝えられる②保存がしやすい③持ち運べることであった。

また教科書には「新聞社の働き」として、「新聞社の仕事は私たちの社会の中でどのような役割を果たしているのでしょうか」という特設單元がある。

そこには「小学生も新聞づくりにちようせん」というコラムがある。学級では、そのコラムに触発されるように壁新聞作りが始まった。



## 5 朝日新聞社見学

2013年10月11日に朝日新聞社を見学した。本校は1学年4クラスあり一度に見学できないので、クラスごとに分かれて見学した。

新聞の印刷の仕方がどのように変わってきたのかを学習し、昔に比べてずいぶんと技術が発展したことを学んだ。その後、記者の方たちが実際に働いている現場を見学した。そこではパソコンを使って割り付けをしているところを見ることができた。自分たちの写真

が入った新聞ができると、子どもたちから大きな歓声が上がった。



また新聞が完成するまでの様子を、ビデオを通して学んだ。自分の家に新聞が届くまでの流れを知って、さらに新聞に対して興味と親近感を持つことができた。



## 6 新聞記者を招いて

県NIE推進協議会に新聞記者派遣を依頼し、2014年1月21日、朝日新聞社加古川支局の島脇健史支局長に話を伺った。

新聞記者の鞆の中には何が入っているかという取材の道具の説明から、体験を交えた取材の仕方、新聞のレイア

ウトの要点を学んだ。その後、レスパーパンダが生まれた記事を読み、自分たちで見出しを見つけ、なぜその見出しにしたかをお互いに発表し合った。内容は子どもたちが行ったことがある姫路セントラルパークでの出来事なので、興味を持って取り組んでいた。2学期の国語の授業で学習した「見出しは書き手の意図を伝える」を、実際の記事で確かめられた。

ちょうどどのクラスも壁新聞作りが真っ最中だったので、自分たちの作品を持ち寄り、記者さんから直接アドバイスをもらえて感激していた。



## 7 おわりに

本校が「ことばの力」の育成に取り組んで3年になる。新聞の良さはいろいろあるが、本校ではこれまでの研究テーマ「説明する理数教育」に関連づ

けて、N I Eを国語、社会、特別活動、総合的な学習の時間をリンクさせて取り組んできた。説明する力は、教科を問わず必要で、特にコミュニケーション力の育成には欠かせない。

子どもたちは、壁新聞作りを通して、最初の「ただ新聞をつくる」から、壁新聞の中で自分たちの意図をどのように伝えようかと考え、「魅力ある、そして効果的な新聞づくり」へと学習を深めることができた。子どもたちの満足そうな笑顔が印象的であった。



課題としては、本年度は取り組みが初めてということもあり、幾分場当たりの活動になってしまった。例えば、新聞記者の招聘時期は、今回のように1月が良かったのか、それとも国語で新聞を取り上げる10月が良かったのか、また新聞社見学前が良かったのか、疑問が残っている。壁新聞づくりとも組み合わせながら、単元構成を考えていきたい。